

ODIPv3.2.8 修正パッチ (P20170706) リリースノート

2017/07/06

(株) インテリジェント・モデル

この文書は、ODIP™ Enterprise Solution v3.2.8 に対する修正パッチ (P20170706)、Build-id:1030208201707060 に関する修正を記述したものです。

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容.....	4
1. SQL ログ文字数制限超過時のエラー回避.....	4
2. データセット情報定義のエクスポート/インポート機能追加.....	4
B. 適用対象.....	6
C. パッチのインストール方法.....	6
1. パッチファイルの内容.....	6
1. ODIP アドミニストレータへのパッチの適用.....	6
1. ODIP オペレーションマネージャへのパッチの適用.....	7
2. ODIP リポジトリマネージャ/プロセスマネージャへのパッチの適用.....	7
3. ODIP リポジトリサーバへのパッチの適用.....	8
4. ODIP トランスフォーマへのパッチの適用.....	9

A. 変更内容

1. SQL ログ文字数制限超過時のエラー回避

ODIP トランスフォーマ・サーバによるジョブ実行中に、ODIP の SQL ログに出力される SQL 文の文字データの長さが、65,535 バイトを超えると、通信エラーが発生し、ジョブが停止状態となる問題が修正されました。SQL 文は、制限範囲 (65,535 バイト) 内の長さに自動的に切り詰められます。SQL ログには、制限範囲を超える部分は出力されません。また、実行中のジョブは通信エラーによってブロックされず、処理を継続するように改定されました。

2. データセット情報定義のエクスポート/インポート機能追加

ODIP プロセスマネージャの、「データセット情報定義」画面に、エクスポート及びインポートのボタンが追加されました (図 1)。

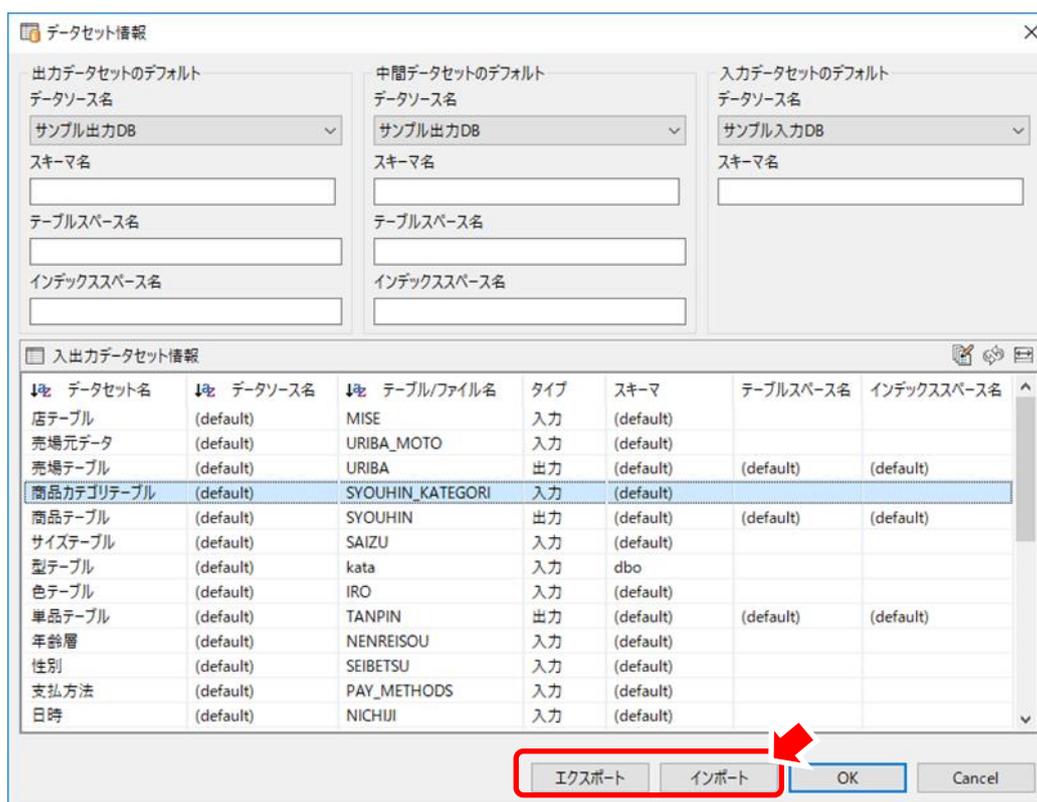


図 1 データセット情報定義画面

(1) データセット情報定義のエクスポート

データセット情報定義画面で、エクスポートボタンを押すと、ファイル名の入力ダイ

アログが開きます。ファイル名を指定して実行すると、入出力データセット情報画面に表示されているデータが CSV 形式で出力されます。入出力データセット情報で参照されているデータソース情報もあわせてファイルに出力されます。

(2) データセット情報定義のインポート

データセット情報定義画面で、インポートボタンを押すと、ファイル名とオプションの入力ダイアログが開きます。オプションでは、インポートファイルの内容で更新する対象となる項目を選択できます。ファイル名とオプションを指定して実行すると、図 2 のデータセット情報インポート確認画面が表示されます。更新の対象となる項目がアイコンで表示されますので、内容に誤りがないか確認します。インポートによって、開いている定義に不具合が生じる場合には、エラーが表示されます。エラーの行にカーソルを合わせると、画面下部にエラーメッセージが表示されます。

内容を確認して OK を押すと、入出力データセット情報が更新されます。エラーのある行はインポートされません。データソース名が登録されていない場合は、データソース情報も追加されます。ここで追加されたデータソース情報には、パスワードが設定されていないので、インポート後にデータソース情報を個別に編集する必要があります。既に登録されているデータソース情報がインポートによって更新されることはありません。

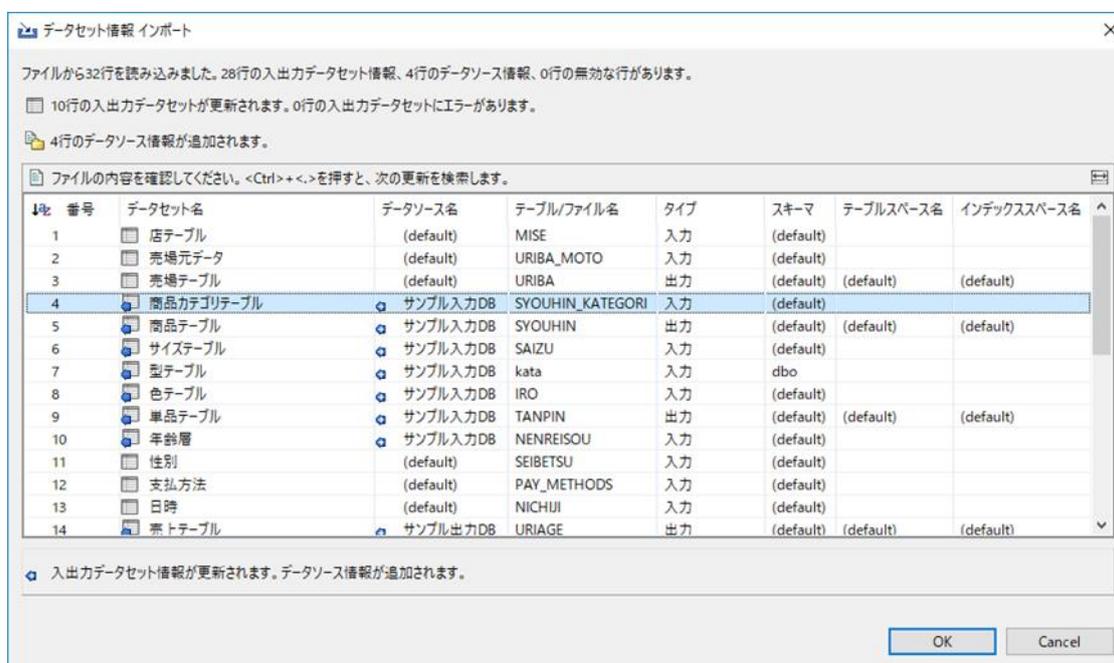


図 2 データセット情報インポート確認画面

B. 適用対象

本パッチは、以下の製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v3.2.8
- ODIP オペレーションマネージャ v3.2.8
- ODIP リポジトリマネージャ/プロセスマネージャ v3.2.8
- ODIP リポジトリサーバ v3.2.8
- ODIP トランスフォーマ v3.2.8

C. パッチのインストール方法

1. パッチファイルの内容

本パッチには、次のフォルダとファイルが含まれています。

フォルダ		ファイル名
ODIP328_P20170706	ADM	odpc.jar, odptc.jar, odpten.jar
	OPM	odpc.jar, odptc.jar
	RPM	odpc.jar, odppm.jar, odppmhelp.jar, odptc.jar
	RPS	odpc.jar, odptc.jar
	TFM	odpc.jar, odptc.jar, odpten.jar

1. ODIP アドミニストレータへのパッチの適用

- (1) ODIP アドミニストレータを実行中の場合は終了してください。
- (2) ODIP328_P20170706¥ADM 下のファイルを、ODIP アドミニストレータのインストールディレクトリ (デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Administrator” になります) 直下にある “lib” フォルダに上書きコピーしてください。
- (3) ODIP アドミニストレータを起動し、ヘルプメニューの “ODIP について” を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更を示しています。

名称	ビルド ID
Administrator	1030208201606300
Component editor	1030208201606300
Repository client access	1030208201606300
Transformer client access	1030208201606300
Common	1030208201707060
Common user interface	1030208201611220
Common database	1030208201606300
Common model	1030208201611220
Repository interface	1030208201611220
Transformer engine	1030208201707060
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300
Deprecated models	1030208201606300

1. ODIP オペレーションマネージャへのパッチの適用

- (1) ODIP オペレーションマネージャを実行中の場合は終了してください。
- (2) ODIP328_P20170706¥OPM 下のファイルを、ODIP オペレーションマネージャのインストールディレクトリ（デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Operation Manager” になります）直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。
- (3) ODIP オペレーションマネージャを起動し、ヘルプメニューの“ODIP について”を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Operation manager	1030208201606300
Common	1030208201707060
Common user interface	1030208201611220
Common model	1030208201611220
Common database	1030208201606300
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300

2. ODIP リポジトリマネージャ/プロセスマネージャへのパッチの適用

- (1) ODIP リポジトリマネージャ、ODIP プロセスマネージャを実行中の場合は終了してください。
- (2) ODIP328_P20170706¥RPM 下のファイルを、ODIP リポジトリマネージャ/プロセスマネージャのインストールディレクトリ（デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Repository Manager” になります）直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。

- (3) ODIP リポジトリマネージャと ODIP プロセスマネージャを起動し、ヘルプメニューの“ODIP について”を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

(ODIP リポジトリマネージャ)

名称	ビルド ID
Repository manager	1030208201606300
Common	1030208201707060
Common model	1030208201611220
Common user interface	1030208201611220
Repository interface	1030208201611220
Deprecated models	1030208201606300

(ODIP プロセスマネージャ)

名称	ビルド ID
Process manager	1030208201707060
Common	1030208201707060
Common model	1030208201611220
Common user interface	1030208201611220
Common database	1030208201606300
Repository interface	1030208201611220
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300
Deprecated models	1030208201606300

3. ODIP リポジトリサーバへのパッチの適用

- (1) ODIP リポジトリサーバを実行中の場合は終了してください。
- (2) ODIP328_P20170706¥RPS 下のファイルを、ODIP リポジトリサーバのインストールディレクトリ (デフォルトでは、“C:¥Program Files¥ODIP¥Repository Server” になります) 直下にある “lib” フォルダに上書きコピーしてください。
- (3) ODIP リポジトリサーバを起動してください。
- (4) ODIP リポジトリマネージャを起動し、ツールメニューの “ORMS サーバ情報” を選択してください。次のビルド ID が表示されることをご確認ください。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Repository server	1030208201611220
Common	1030208201707060
Common model	1030208201611220
Common user interface	1030208201611220
Repository interface	1030208201611220
Deprecated models	1030208201606300

4. ODIP トランスフォーマへのパッチの適用

- (1) ODIP トランスフォーマ・サーバを実行中の場合は、“stopserver.sh” コマンドを実行して、トランスフォーマ・サーバを停止してください。
- (2) ODIP328_P20170706\FM 下のファイルを、ODIP トランスフォーマのインストールディレクトリ直下にある“lib”フォルダに上書きコピーしてください。
- (3) ODIP トランスフォーマ・サーバを起動してください。“showserver.sh -i v” コマンドを実行して、下表のビルド ID が表示されることをご確認ください。これ以外のライブラリについては、従来のビルド ID が表示されます。太字は本パッチによる変更分を示しています。

名称	ビルド ID
Common	1030208201707060
Common model	1030208201611220
Common database	1030208201606300
Transformer common	1030208201707060
Transformer repository	1030208201606300
Transformer server	1030208201611220
Transformer engine	1030208201707060
Transformer Client Commands	1030208201611220

以 上